

はじめに

～「国語の授業づくり」1年目を終えるに当たって～

副校長 清水 潤

研究主題「児童生徒一人一人が主体的に学び、学びを広げる姿を目指した国語の授業づくり」1年目を終えるに当たり、基本的なことを2点おさえておきたい。

1 生活全体にわたり、学習や生活の基盤となる国語の理解

改めて示すまでもなく、国語は生活全体にわたり、学習や生活の基盤となっている。例えば、特別支援学校学習指導要領国語科の内容として示されている思考力・判断力・表現力等の「聞くこと・話すこと」「書くこと」「読むこと」をイメージすれば分かりやすいだろう。また、学習指導要領では、教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成として、学習の基盤となる資質・能力の1点目に言語能力が示され、国語科はその要の教科となっている。なお、知的障害教育では、児童生徒の実態を学校生活だけではなく、家庭生活や地域生活を含めて生活全体から捉え、生活に生きる教育を大切にしている。

以上のことを理解し、国語の時間における指導と他の教科等における指導との関連を図りながら、授業づくりを進めていくことが大切になる。

2 十分な教材研究

今年度は、各授業研究会等を通じて、教材研究の大切さを改めて認識した。本県「特別支援教育のミニマムスタンダード」の「授業デザインチェックリスト」には、教材研究の項目の一つとして「単元（題材）の目標に迫るため、適切な教材が検討されている。」と示されている。適切な教材を検討するに当たっては、学習指導要領に対応した特別支援学校小学部・中学部知的障害者用教科書（文部科学省著作）及び同教科書解説が参考になる。特に教科書解説では、題材の意図や学習指導例等が題材ごとに示されていることから、著作教科書を授業で使うか否かにかかわらず、大いに参考にしたい。

研究主題や各単元（題材）目標に迫るためには、以上のことを含めて、教材研究を十分に行い、深めていくことが大切になる。

全校授業研究会において指導助言いただいた先生方には、改めて感謝申し上げます。また、本紀要を御覧いただいた皆様には、御意見御感想をお寄せいただければ幸いです。